

第1回 日本臨床薬理学会東海・北陸地方会を終えて

浜松医科大学医学部薬理学

梅村和夫

会期：2016年5月28日（土）13：00～17：10
 会場：プレスタワー 17F 静岡新聞ホール（浜松）
 会長：梅村和夫（浜松医科大学医学部薬理学）
 テーマ：新たな地域の活力

1. 開催概要

第1回日本臨床薬理学会東海・北陸地方会を2016年5月28日（土）に浜松プレスタワーで開催した。初めての地方会開催ということで、「新たな地域の活力」というテーマを掲げた。地域で日頃から活動を共にしている仲間が集い、身近な課題に対する討論や日頃の新しい研究を発表することを目的とし、より深い議論に結びつけられればと考えた。

臨床薬理学は「合理的な薬物療法を確立」することを以って、人類の健康と福祉に貢献する学問であると考えられる。「合理的な薬物療法の確立」には、「新しい薬物治療法の開発」と「既に使用可能な薬物治療法の効果的な使用法の開発」がある。教育講演として、「新しい薬物治療法の開発」において、重要な知識や考え方についての講演を2題企画した。一般講演「既に使用可能な薬物治療法の効果的な使用法の開発」では、臨床データを活用し、そこからエビデンスを作り出すことの重要性についての講演を2題企画した。また、一般演題（ポスター発表）を募集し、11題のポスター発表が行われた（Table 1, Table 2）。

参加者数は181名（事前申込108名、当日申込73名）と、多くの方々にご参加くださり、大変有意義な会となった。講演においては、参加者は熱心に拝聴し、講演後、活発な討議がなされた（Photo. 1）。

終了後には、参加者各位の交流を深めていただくため懇親会を開催した。和やかな雰囲気で行われ、各位が交流の場をもつことができた。

2. 教育講演

教育講演は、岩崎幸司氏（武田薬品）に研究者の立場から、また、プロトコルをチェックする立場からの課題を踏

まえたプロトコル作成時の注意点について講演いただいた。講演後は具体的な対応について、参加者を含めた活発な討議が行われた。折笠秀樹氏（富山大学バイオ統計学・臨床疫学研究）からは、詳細かつ具体的内容を踏まえた臨床研究における統計学について講演いただいた。特に、統計学というと難しいものと敬遠され、避けて通りたいと思っている方が多い中で、注意しなければいけないポイントや

Table 1 プログラム

▶教育講演

講演1. プロトコル作成とリスク管理

座長：梅村和夫（浜松医科大学医学部薬理学）

講演：岩崎幸司（武田薬品工業株式会社メディカルアフターズ部）

講演2. 統計学—どこまで知っておけば十分か？

座長：西川政勝（三重大学医学部附属病院臨床研究開発センター）

講演：折笠秀樹（富山大学大学院医学薬学研究部バイオ統計学・臨床疫学研究）

一般演題（ポスター）閲覧 討論会

▶一般講演 臨床データの活用

演題1. ヒトの薬物動態に関する情報の読み方とその活用

座長：川崎洋平（静岡県立大学薬学部薬学科医薬品情報解析学分野）

講演：内藤隆文（浜松医科大学医学部附属病院薬剤部）

演題2. 臨床研究におけるデータベース活用

座長：乾直輝（浜松医科大学医学部臨床薬理学）

講演：佐藤亮介（聖隷健康診断センター）

著者連絡先：梅村和夫 浜松医科大学医学部薬理学 〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1 E-mail: umemura@hama-med.ac.jp

投稿受付2016年7月21日、掲載決定2016年7月28日

ISSN 0388-1601 Copyright: ©2016 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 2 一般演題 (ポスター)

座長:	古田隆久 (浜松医科大学医学部附属病院臨床研究管理センター)
P-01	高齢者の睡眠と唾液アミラーゼ活性に対する低カフェイン緑茶の効果 野田誠紀 (静岡県立大学大学院薬学研究院)
P-02	球脊髄性筋萎縮症患者に対するリュープロレリン酢酸塩長期使用効果を検討した自主臨床研究について 橋詰 淳 (名古屋大学医学系研究科神経内科学)
P-03	球脊髄性筋萎縮症に対する疾患特異的機能評価スケール (SBMAFRS) の開発: 医師と CRC によるバリデーション 中島智美 (名古屋大学大学院医学系研究科神経内科)
P-04	いわゆる健康食品の摂取に伴う有害事象情報の収集: 診療所を対象とした調査 井出和希 (静岡県立大学薬学研究院医薬品情報解析学講座)
P-05	いわゆる健康食品の摂取に伴う有害事象情報の収集: 薬局を対象とした調査 野口真里茄 (静岡県立大学薬学部医薬品情報解析学講座)
座長:	小田切圭一 (浜松医科大学医学部附属病院臨床研究管理センター)
P-06	オキサトミドによる意識障害が疑われた 1 例 櫻井陽介 (聖隷浜松病院総合診療内科)
P-07	メリロートエキスの併用によりワルファリンのコントロール不良が疑われた一例 細井麻里 (聖隷浜松病院薬剤部)
P-08	医療機関における生物統計コンサルテーションの実施状況及び支援内容の調査 内山吉彬 (静岡県立大学薬学部医薬品情報解析学分野)
P-09	倫理委員会審査からみた臨床研究における統合指針の遵守状況 — 研究計画書および説明文書を中心に — 鈴木啓介 (国立長寿医療研究センター治験・臨床研究推進センター)
P-10	治験審査委員会審査資料の電子化に向けた取り組み — iPad を用いた IRB 審査を実施して — 伊藤文隆 (国立長寿医療研究センター治験・臨床研究推進センター)
P-11	本学における医学系研究に対する新たな倫理審査体制確立の試み 鈴木美世子 (名古屋市立大学病院臨床試験管理センター)



Photo. 1 講演での質疑応答



Photo. 2 ポスター発表

ここだけ押さえておけばいいポイントを具体的に示しながら話をしていただき、大変わかりやすい講演となった。

3. 一般講演

一般講演では、内藤隆文氏 (浜松医科大学薬剤部)、佐藤亮介氏 (聖隷健康診断センター) より臨床で得られたデータを活用した投与設計や安全性情報の解析、さらに、希少疾患に対するレジストリ整備の課題と今後の展望について講演いただいた。臨床に直結する研究であり、それらによって得られたデータは薬物治療にすぐにも活用でき、大変興味深いものであった。また、希少疾患に対するレジストリ整備については、今後の発展が期待されるものと感じた。

4. 一般演題 (ポスター)

ポスター発表においては、座長の司会のもと質疑に熱中する参加者の真摯な姿勢が見られた (Photo. 2)。発表は学生を含むそれぞれの立場からの内容で、臨床研究の成果、倫理的な課題、臨床研究の管理等の多岐にわたる分野からの発表があった。時間を忘れるほどの熱心な討議がなされた。

5. アンケート実施結果

地方会終了後にアンケートを実施した (Figure)。回収率は 46% (84 名) であり、回答には今後の地方会の方針を検討する情報が数多く含まれていた。この場をお借りして、アンケートの結果の一部を紹介する。

参加者の所属については、病院、大学・研究機関が約 80% を占めていた。職種については、薬剤師、看護師、医師がそれぞれ、40%、16%、13%、また回答者のうち学会会員は約半数の 46% であった。来年の地方会の参加については、約 80% の方々が参加したいと回答している。今回、アンケートに協力してくださった方々が病院、大学・研究機関の所属が多かった可能性もあるが、回答者の約半数が学

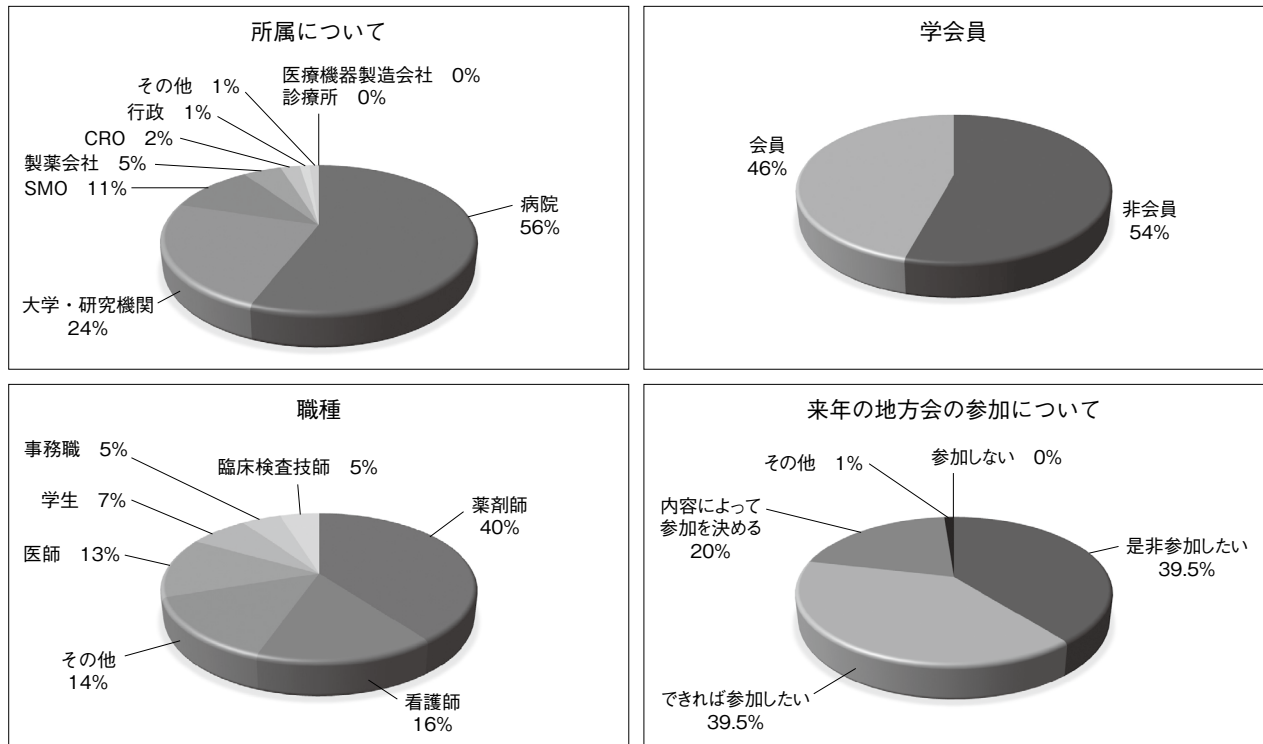


Figure アンケート結果

会非会員という結果となり、この方々が学会に入会したくなるためにはどのような活動をすれば良いのかを議論し、学会会員数の増加を目指すことが今後の課題であると考えられる。また、地方会を充実していくことで、さらに盛況な臨床薬理学会になるよう期待する。

6. 今後の発展に向けて

最後に、地方会に附随して東海・北陸支部の会があり、今後の地方会の位置づけについて議論した結果を報告する。地方会の役割として、「教育的な講演」、「若手の研究者

に口頭発表の機会を提供する」ことが大切ではないかという結論となった。次回の地方会会長は前述の内容を考慮して企画する予定であり、今後の地方会の発展につながるものと考えている。

今回、初回開催ということで至らぬ点もあったかと思いますが、多くの方々にご参加いただき感謝申し上げます。また地方会及び支部の事務局、日本臨床薬理学会事務局並びにご協力いただきました多くの方々のご支援で成功裏に終了できましたこと、心から御礼申し上げます。